

市政報告

仙台市議会議員
伊藤 ゆうた



ご意見・お問い合わせは
✉ info@itoyuta.com

一般質問などを通じて、継続的に市政の問題点を追及し、提言を行っている。▲

- 経済環境委員会委員
- 文化芸術・スポーツ振興調査特別委員会委員
- 会派名：市民の会

八木山動物公園に ジャイアントパンダではなく、 ナマケモノ誘致を！



令和8年第1回定例会の予算等審査特別委員会において、**八木山動物公園の活性化**について質疑しました。新年度に向けた再整備の方向性を確認するとともに、来園者にとって魅力ある動物園づくりの必要性を指摘しました。

まず、これまでの経緯として、仙台市とスマイルアップ社によるジャイアントパンダ誘致に関する覚書について触れました。この覚書は**公文書開示において重要部分が黒塗り**とされ、内容が明らかにされてこなかった経緯があります。その後、このスキームは解消され、**ジャイアントパンダ誘致は費用面を含めて不透明な状況**になっています。

こうした状況を踏まえ、私は、費用の目処が不透明なジャイアントパンダ誘致を進めるのではなく、現実的かつ持続可能な動物導入へと方針を転換すべきではないかと提起しました。

近年、八木山動物公園ではニシゴリラやインドゾウなどが相次いで亡くなり、展示動物の種類が減少しています。

動物の集約化や展示方法の工夫も重要ですが、「まだ見たことのない動物を見たい」という子どもたちの期待に応える視点も欠かせません。そこで私は、**新たな魅力づくりの一例としてナマケモノの導入**を提案しました。

これに対し市は、大規模改修中の南米館（2034年完成予定）においてナマケモノの飼育を検討していると答弁しました。新たな哺乳類の導入は2022年のクロシロエリマキキツネザル以来です。



▲ナマケモノの導入で動物公園に新たな魅力を。



▲ジャイアントパンダ誘致の先行きは、不透明となっている。

公園の「基準外遊具」1,000基

令和8年度から修繕へ

令和8年第1回定例会の予算等審査特別委員会において、公園遊具の安心・安全について質疑しました。

仙台市の公園における遊具事故について調査を求めた結果、令和3年度からの約5年間で26件の人身事故が発生していることが明らかになりました。原因を見ると、不適切な利用が54%である一方、遊具の不具合による事故が38%、両方が重なったケースを含めると、約46%が遊具のコンディションに起因している状況です。さらに、骨折や脱臼といった重大事故も発生しており、看過できません。

不具合の具体例としては、鉄板の腐食や塗装の剥がれ、コンクリート基礎の露出などが挙げられます。こうした状態を放置すれば、重大事故につながるリスクが高まります。私は、事故や不具合の具体例を写真等で公開し、市民が危険な状態を認識できる仕組みを構築することで、早期通報と迅速な対応につなげるべきと提案しました。

北五番丁公園の
基礎が露出した
基準外の鉄棒



また、これまで事故情報が各区ごとに管理され、本庁で一元的に把握されていなかった点も問題として指摘しました。他都市のように情報を集約し、全市的な安全対策に活かす体制の整備が必要です。

さらに、日本公園施設業協会の基準を満たさない遊具が市内に約1000基存在していることも明らかになりました。基礎の露出や柵の高さ不足など、安全上の課題を抱える遊具が一定数残されている現状です。

これに対し市は、新年度から基準外遊具の修繕・更新に順次着手する方針を示しました。子どもたちが安心して遊べる環境を確保するため、今後も安全対策の強化を求めてまいります。

第二のメガソーラーに!?

仙台市のデータセンター誘致は大丈夫？

令和8年第1回定例会の予算等審査特別委員会において、新年度の企業立地促進助成金に関連し、データセンターの立地検討について質疑しました。データセンターはデジタル社会を支える重要インフラであり、本市にとっても産業集積や経済活性化の観点から大きな可能性を持つ分野です。一方で、立地にあたっては地域理解の確保が不可欠です。

首都圏では、巨大建築物による圧迫感や騒音、排熱などを巡り、住民とのトラブルや計画見直しに至った事例もあります。本市においても、メガソーラー計画を巡る経緯から、情報共有の不足が地域の不信を招いた教訓があります。

私は、データセンター誘致においても同様の混乱を招かないよう、「第二のメガソーラーにしてはならない」と指摘しました。その上で、立地の妥当性や環境影響について客観的データに基づく説明を行い、市が主体的に情報を共有しながら、住民との双方向の対話を進めるべきと提起しました。



▲データセンター誘致には市民の納得感が重要

※画像はイメージ